

建設 ながの

(一社)長野市建設業協会
長野県建設業協会長野支部

— 広 報 誌 —

1
2025
(令和7年)
No. 231



佐久平PAから 壮大な北アルプスを望む

県内各地で眺めることのできる北アルプス。特に晴れた冬の日の雪化粧をした北アルプスの美しさは格別です。場所によって見え方は様々ですが、佐久平PAのハイウェイオアシスのエスカレーターを登った高台からは穂高連峰から白馬乗鞍岳までの40座以上の山々を望むことができ、人気の撮影スポットです。真っ白に染まった稜線と、雪のない手前の山並み、そして平野部の家々が長野県の広さを物語っています。
(中島 麻希)

目 次

- | | |
|---|---|
| 2. ■ 長野市長 年頭あいさつ | 7. ■ 長野市建設業協会長 年頭あいさつ |
| 3. ■ 長野県長野建設事務所長 年頭あいさつ | 8. ■ 「松代文化財ボランティアの会と資料整理」
松代文化施設等管理事務所研究員 山中 さゆり |
| 4. ■ 県現地機関職員と意見交換
■ 女性部会が長工高建築科1年生と交流会 | 9. ■ 長野市建築関係職員と意見交換 |
| 5. ■ 2団体賀詞交歓会
■ 支部長表彰受賞者 | 10. ■ 年男年頭所感 |
| 6. ■ 県建設業協会長野支部長 年頭あいさつ | 11. ■ 「キャンプに誘われて」
(株)ナガノ建築サービス代表取締役 徳武 信行 |

新年のごあいさつ



長野市長
荻原 健司

明けましておめでとうございます。

長野県建設業協会長野支部、長野市建設業協会の皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃は都市基盤である社会資本等の整備をはじめ、冬季の除雪作業など、市民の安心・安全な暮らしの実現に御協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

昨年は、令和6年能登半島地震をはじめ、全国各地で豪雨などの自然災害が発生し、また、長期化する物価の高騰などにより、市民生活や経済活動が大きく影響を受けた1年でありました。

そのような中、本市では、令和元年東日本台風災害から5年が経過したことを受け、昨年10月、復興支援事業「絆」を開催いたしました。引き続き、ソフト・ハード両面から治水対策や復興支援を進めるとともに、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」関連事業にしっかりと取り組んでまいります。近年、頻発化傾向である集中豪雨や大規模な地震など、緊急体制を確保することの重要性が増しています。そのような中、皆様には、緊急出動や災害復旧等に多大なる御尽力を賜りましたことに感謝申し上げます。

本市の建設行政におきましては、様々な効果が期待される（仮称）若穂スマートインターチェンジの整備を着実に進めるとともに、流域治水の一環として市内複数箇所に整備する雨水調整池についても、早期の事業効果発現を目指し、整備促進を図ってまいります。

公共建築物につきまして、小中学校などの長寿命化改修工事に加え、オリンピック施設など大規模施設の長寿命化改修工事も本格的に始まってまいります。週休2日工事や情報共用システムの適用、快適トイレなど、建設現場で働く方々の労働環境に配慮した工事発注に取り組んでまいります

ので、引き続き、市内建設事業者の皆様のお力添えを賜りますようお願いいたします。

街路事業につきましては、相生橋を含む山王小柴見線で令和8年度から橋梁架け替え工事に着手できるよう準備を進めており、また、川中島幹線は引き続き道路築造工事の進捗を図ってまいります。さらに七瀬居町線は、早期工事着手を目指し用地取得を進めるとともに、北部幹線についても今年度内の事業化に向けて取り組んでおります。

茶臼山動物園で整備を進めている「アムールトラの森」は、獣舎のほかに学習室や物販スペースを複合した施設を建築し、併せて、樹木や水を用いて森林環境を再現した動物本来の行動を引き出す屋外展示施設を整備するもので、令和8年春のオープンを目指し事業を進めてまいります。

中心市街地では、長野駅前で計画が進む市街地再開発事業の円滑な事業実施に向けて支援を行っていくほか、もんぜんぶら座敷地を含めた新田町交差点周辺のまちづくりについて、関係者等との連携を図り方針を定めてまいります。

上下水道事業は、市民生活を支える重要な社会インフラであり、昨年1月の能登半島地震の教訓を踏まえ、国では施設の耐震化状況について、全国の事業者等に対して緊急点検を実施し、対策強化の検討を進めています。本市においても基幹管路や老朽管の更新に併せた耐震化を計画的に進めておりますが、引き続き国の動向を注視しながら、着実に耐震化の取組を進めてまいります。

また、「上田長野地域水道事業広域化協議会」で協議を進めている水道事業の広域化については、現在、各構成団体の議会及び住民の皆様からの意見をいただきながら、事業統合に向けた基本計画案の策定を目指しております。本市においても市民説明会等の開催により御意見等を伺い、それを踏まえ、協議会で基本計画案とした上で、議会に御意見をお聞きし、広域化の方向性を決定してまいりたいと考えております。将来にわたり安全・安心な水を提供できるよう、引き続き取り組んでまいります。

結びに、今年一年の皆様のお多幸と御健康を心から祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

安全・安心で活力あふれる「中核的都市圏・長野」

新年のごあいさつ



長野県長野建設事務所長
坂口 一俊

新年明けましておめでとうございます。

長野地域は、政治・経済・文化・教育等の機能が集積し、県の中核的地域として発展する一方、千曲川の氾濫や山間部での土砂災害等の災害を度々受けております。人口減少社会を迎え、気候変動により気象が激しさを増すなか、地域拠点での必要なインフラや公共サービスの維持、更なる発展には、コンパクト・プラス・ネットワークと、災害に強靱なまち・むらづくりを、同時にあわせもつ県土づくりが必要です。

道路ネットワークでは、長野市東部地区において、(仮称)若穂スマートインターチェンジ整備、五輪大橋無料化等を見据え、(一)三才大豆島中御所線の4車線化事業や落合橋架替事業を進め、その強化を図ります。4車線化事業は、地域の皆様のご協力により、本年から本格な工事着手となります。落合橋架替事業では、下流約50mに新たに建設する橋梁の詳細設計を行うとともに、取付道路のルート定着を図ってまいります。

コンパクトなまちづくりでは、地域拠点整備として、川中島地区や篠ノ井地区で街路事業を展開し、人をひきつける快適なまちづくりを進めております。川中島地区では、渋滞となっていた交差点に新たなレーンや歩道の整備工事を進め、一部供用開始し、整備効果も現れております。引き続き、完成に向け、工事進捗を図ってまいります。

さらに、災害に対する強靱な県土づくりが必要です。自然災害の激甚化・頻発化に対し、地域拠点等の安全・安心の確保は待ったなしです。「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」に位置付け

られた浅川及び岡田川の排水機場の本年完成、河川の堤防強化対策事業や要配慮者利用施設を守る砂防施設整備等を重点的に実施し、ソフト対策と連携し、地域の安全安心の確保を進めてまいります。

インフラ整備は、それぞれ目的をもって各地域で展開しておりますが、さらに地域づくりと結びつくことで、整備効果が一層高まります。バイパス整備では、人や物の移動時間の短縮化とともに、まちなかの旧道は、交通量が減となり、通学や散策、買い物等の安全性が向上し、地域の活性化につながることを期待されます。各地域では、地域の皆様の思い思いの地域づくりがあります。その地域づくりが活かされるよう、地域と連携して取り組んでまいります。

一方、インフラについては、老朽化が課題となっております。定期点検等で長寿命化計画を見直し、計画的修繕により、コスト縮減や修繕費の平準化を図ってまいります。とりわけ建設後約50年経過し、堆砂によりダム機能が低下している裾花・奥裾花ダムでは、施設修繕に加え、堆砂土除去等による貯水池機能回復に取り組んでまいります。

また、インフラの整備においても、建設業界では、担い手不足が深刻化しております。官民学一体で、次世代担い手確保の取組、建設DXなどに取り組んでおります。高校生対象の「裾花川のウォーキングロード整備」は、①身近な郷土(ふるさとで地図に残る仕事)②熟練技術者の指導(プロが背中を見せる)③生徒が自分たちの手で構造物を造りあげる、3点セットで取り組み、去年は参加者の約6割が地元建設企業に就職しております。低年齢層への取組の中学生インターンシップでは、「将来は建設系の職業に就きたいと更にも思いました」と感想をいただき、取組の推進に一層力が入ります。

最後に、当事務所の取組推進に、引き続き一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。新年の御挨拶といたします。

運搬費の別途計上等要望 県現地機関職員と意見交換



県建設業協会長野支部は12月9日、長野市内のホテルで「県現地機関との意見交換会」を開催した＝写真。同支部からは約50人、県現地機関からは長野建設事務所、長野地域振興局、浅川改良事務所、裾花ダム管理事務所、千曲川流域下水道事務所、川中島水道管理事務所、北信会計センターの担当者24人が出席した。冒頭、飯島泰臣支部長は「懇談会は、適正な施工と品質向上への課題について双方で意見を出し合い、県民の利益に資するために開催している」と、議論を基に仕事によりスムーズに進められることに期待。長野

建設事務所の坂口一俊所長は「建設業の取り組みは、県が緊急の課題としている人口減少への対応の足掛かりの要となる。共に解決策を議論し解決につなげていきたい」とあいさつした。

意見交換会は、原山大輔土木委員長が座長となり、あらかじめ同支部がまとめた質問、要望事項に沿って行われた。支部側は、4月から自動車運転業務の時間外労働に上限規制が設けられ、水道管製造メーカーが、同月から出荷する資材の送料を別途費用に計上するようになったと説明し、「物流側への費用なので管材料の上乗せにならない。この送料を消費税のような預り金として別途工事費に加えてほしい」と要望。県側は「運搬料が費用に上乗せされたことは理解した。技術管理室に伝えるが、状況を把握するため、業界からも金額資料など具体的な情報提供をしてほしい」と協力を求めた。

出来形管理等測定数が10点未満の場合、難易度が高くても評価に反映されない総合評価について、金額等で採点方法を分けることを求め、作業員の負担を減らすため、国の竣工検査方式による書類の軽減などを要望した。県側は「要望は技術管理室に伝える」と述べるにとどめた。

女性部会が長工高建築科1年生と交流会

県建設業協会長野支部・長野市建設業協会の女性部会（吉村亜美部会長）は12月12日、建設業界で活躍する技術者と長野工業高校生との交流会を同校で開いた。建設業の魅力や仕事について理解を深めてもらい、若者の入職や定着を図ることを目的に開催。これまで女子生徒のみの参加だったが、5回目となる今回から男子生徒も加わった。建築学科1年生41人と、協会から建設会社の各分野で働く若手社員を含む技術者ら約15人が参加。吉村部会長は冒頭のあいさつで、「皆さんが疑問に思っていることや聞きたいことを若手技術者と話してもらい、就職を考える時に役立ててほしい」と呼び掛けた。

前半は建築物を作る仕組みや、工事に携わる体制としてゼネコン（総合工事業者）やサブコン（技能者）、施工管理の仕事について画像などを



使って丁寧に説明。生徒らはメモをとりながら熱心に話を聞いていた。後半は6～7人の6グループに分かれ、座談会形式で行った＝写真。

若手技術者たちは仕事の内容ややりがい、資格の重要性などを話し、生徒からは建設業に携わって良かったことや苦労したこと、休日・残業の労働環境など、さまざまな質問が飛び交った。

「若者に選ばれる業界に」

長野支部・長野市建協 合同新年会

県建設業協会長野支部と長野市建設業協会の「合同賀詞交歓会」が17日、ホテル国際21で開かれた。来賓、会員ら70人が出席し、市民生活や街づくりへの貢献を誓い、両団体のさらなる発展を祈念して新年の門出を祝った。

あいさつに立った飯島支部長は「本年は団塊の世代が後期高齢者となり、人手不足がより進む。我々もこれまでの慣例に捕らわれない、大胆な発想を考えていかないといけない。世界情勢を含め、不安定で厳しい年となる予感もあるが、これまで培ってきた経験や関係も保ちながら、世の中になくってはならない建設業2団体として、力を合わせてこの難局を切り抜けていく」。川浦会長は「地域の守り手として我々が存続していくには安定的、持続的な事業量が必要。行政には予算の確保や働き方改革推進への理解と協力をお願いし、両団体で連携を取り合い建設業が魅力ある産業として若者に選ばれるよう、業界発展に努めていく」と述べた。

長野市の荻原健司市長が「物価高騰が続くが、市民の暮らしを守るため、必要な予算をしっかりと確保し協力していく」。自民党県第一選挙区支部長の若林健太氏は「地域を創るため、政治に係る我々と建設業は車の両輪。今後も協力して地域の発展に取り組んでほしい」。県議会入札制度研究会長の服部宏昭県議は「人手不足など暗い話もあるが、建設業が潤うよう必要な予算や工期を確保していくので、この北信地域から県全体を明るくしてほしい」とそれぞれ祝辞を述べ、長野市議会の西沢利一議長が乾杯の音頭を取り、和やかな歓談が行われた。

県建設業協会長野支部は合同賀詞交歓会を前に善光寺大勧進で安全祈願、同ホテルで支部長表彰式を行った。表彰式では、受賞者を代表して野村建設の野村和正社長が「表彰を糧に、これからの建設業、地域社会の発展のため、より貢献していく」と謝辞を述べた。代表によるダルマの目入れ

あいさつする
飯島支部長(右)
左は川浦会長



を行った後、県長野建設事務所の坂口一俊所長が祝辞を述べ、岡澤元夫相談役の音頭で威勢よく手締めを行い、一層の発展を祈念した。

令和6年度支部長表彰の受賞者は次の各氏。

【3条関係 企業役員】△高木亜矢子（高木建設代表取締役社長）△野村和正（野村建設代表取締役社長）

【5条関係 企業従業員】△関正晴（飯島建設住宅事業本部工務部工務課課長代理）△洪川兼弥（岡澤建設技術部技術課長）△小山明彦（小山田組常務取締役）△綿貫義正（鹿熊組土木工務部工務部長）△袖山喬（同同）△倉科和喜（北野建設建築事業本部副本部長本社担当 安全管理本部長技術本部担当△中村慶胤（久米路建設専務取締役）△黒岩達也（高木建設土木部次長）△大竹忍（同土木部主任）△青木博幸（千広建設主任）△百瀬芳徳（北信土建建築事業部課長）△城取信彦（守谷商会品質技術本部品質管理部次長）△山崎正人（同土木事業本部工務部次長NEXCO担当）

県土尻川職員と技術懇談

犀協会 砂防現場の安全パトモ

犀協会は12月11日、砂防安全パトロールと技術懇談会を行った。午前中は県土尻川砂防事務所発注現場を2班に分かれて中条・小川、七二会・篠ノ井方面に出向き、現場代理人から作業状況や安全対策などを聞きながらパトロールを行った。

技術懇談会で小池毅夫副会長は「会員の安全意識と技術力の向上を目的に今日の会はある」と強調。土尻川砂防事務所の小林信也砂防課長は「当事務所管内では厳しい条件下での工事が多いが、パトロールで出た内容を社内に周知し、労災ゼロを目指してほしい」と呼びかけた。

『能登半島地震を振り返り』



新年のごあいさつ

長野県建設業協会長野支部
支部長 飯島 泰臣

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は支部活動に多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

2024年1月1日、最も穏やかであるはずの元旦の夕方に、能登地方で大地震が発生しました。津波や土砂災害によって多くの家屋が倒壊し、死者400人以上という甚大な被害が生じました。その映像を目にし、常日頃「災害への備え」を呼び掛けている立場でありながら、改めて自然の猛威に対する怒りと無力感を覚えました。

そのような中、しかも新年早々にもかかわらず、災害発生からわずか数日で多くの会員企業が被災地復旧支援に賛同し、大量の復旧用資材を提供して下さいました。さらに義援金募集では、支部の全会員から総額250万円もの寄付をいただきました。この金額は、県内支部で最高額となります。令和元年の台風19号災害時に、泥だらけになってライフライン復旧に奔走した経験や、その時いただいた北陸地方を含む日本全国からの支援に対する感謝を忘れない、という長野支部の会員ならではの「被災地への想い」に触れ、支部長として大変誇らしく思いました。ご協力いただいたすべての会員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

今回の地震は、自然災害の恐ろしさを再々度認識するとともに、我々建設業が被災地復旧やインフラ整備を通じて、人々の生活を支えるために欠

かせない存在であることを、改めて実感させる出来事でした。一方で、「担い手不足」の問題がますます深刻であることも浮き彫りとなりました。9月の集中豪雨で更なる被害を受けた被災地・能登の復旧作業が遅れている要因の一つにも「労働力不足」が挙げられます。昨年4月からの時間外労働上限規制の適用によって、働く環境は改善されつつありますが、その一方で「総労働力の減少」という矛盾も生じています。今年は「2025年問題」として、団塊世代の大量退職による今まで以上の労働力不足が懸念されています。この課題は、もはや業界や企業単位での取り組みを超えて対応すべき事態と言えるでしょう。

さて、昨年は地震や台風豪雨といった自然災害、物価高騰、若者による犯罪の多発など、暗いニュースが目立つ一年でした。その中でも明るい話題といえば、パリ五輪での日本人選手の活躍や、大谷翔平選手の「50-50」達成が挙げられます。このように、スポーツ選手がチャレンジする姿は、どの時代においても人々に感動や勇気、元気といった「活力」を与えてくれるものです。私自身もスポーツ事業に携わっておりますが、正にその力を実感しています。（我々が「信濃グランセローズ」も、創設18年目にして悲願の日本一を勝ち取ることが出来ました！）

結びに、本年の干支「巳」について触れさせていただきます。「巳（蛇）」は脱皮を繰り返して成長することから、「生命力」「復活・再生」を連想し、不老長寿の象徴ともされています。今年が「巳」のごとく、被災地の復活と再生を加速させる一年となることを心より祈念いたします。

引き続き、当支部の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

そして、街はメディアになる。

 **矢木コーポレーション** 養荘

長野市真島町川合2036番地 Tel:026-283-7000
Mail:yg@yagicompany.jp

地域を支える技術者集団

長野県土木施工管理技士会
長野支部

長野市岡田町124-1 長水建設会館内
TEL 026-227-6226 FAX 026-228-6231

建設業にとって成長と変化が 実感できる年となることを期待して



年頭所感

一般社団法人長野市建設業協会
会長 川浦 俊樹

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当協会の活動にご理解と多大なるご尽力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年は新年早々から能登地方での地震、羽田空港での航空機の衝突事故と心を痛める暗いニュースからのスタートとなりました。また、令和4年から続くウクライナ侵攻は、未だに解決の糸口が見えず、円安や原油価格も安定しない中、さらには中東においても紛争が続いており、多くの命が奪われている現実とともに、先の見えない未来に不安を感じております。

少子化の影響であらゆる業界で労働者は不足しておりますが、我々建設業においても深刻な人手不足や従業員の高齢化に加えて労働時間規制の見直しなど課題を抱えております。そのため週休二

日等の働き方改革を進め、賃金・社会保障等の環境を改善し女性・若者の担い手確保・育成を図る必要があります。

昨年度は、小学校関係の長寿命化改修工事において2つの工事で現場見学会を実施し、また今年度はSaSaLANDで子供たちへの仕事の体験提供を行うなど一人でも多くの子供たちが建設業に興味を示すことを期待し、積極的に取り組んでまいります。

昨年も市役所担当者との土木技術懇談会、建築行政懇談会を行い、今までの協議事項や会員企業からの新たな要望について前向きなお答えをいただいております。今年も長野県建設業協会長野支部の飯島支部長や理事の皆様にご相談させていただき、問題を共有し、市長要望・市議会建設企業委員会・長野市職員との懇談会を通じ、業界の課題や要望を伝え、長野市の建設業界が良い方向へ進むよう活動していけたらと思います。

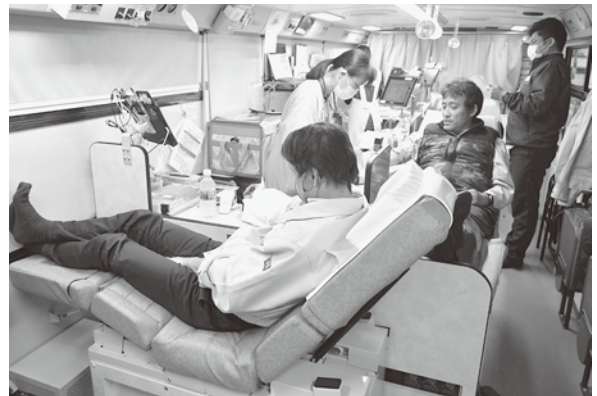
本年も関係の皆様からのご指導・ご鞭撻をお願いするとともに、皆様にとりまして成長と変化を実感できる一年になることをご祈念申し上げ年頭の挨拶とさせていただきます。

40回目の献血ボランティア

県建設業協会長野支部と長野市建設業協会は12月19日、長野市岡田町の長水建設会館で献血ボランティア活動を実施した。「建設で献血だ！」を合い言葉に毎年2回実施する献血は今回で40回目。作業服姿などの会員企業や協力企業の社員ら45人が仕事の合間に次々と駆けつけ、医師による問診で採血が認められた42人が会館玄関前に待機している採血バスに乗り込み、新型コロナウイルス感染防止対策が施された車内で400mlの献血を行った。

今回で23回目の参加となるという川中島建設の清水信寿工務本部長兼土木部長（59）は「仕事以

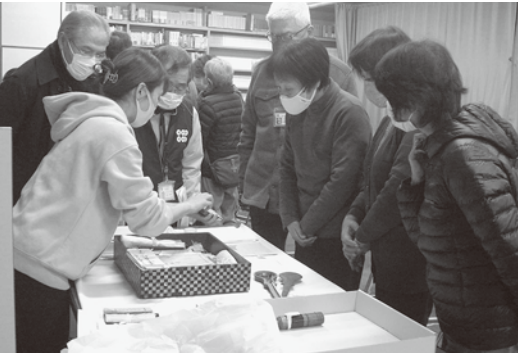
外で社会に貢献できる良い取り組みなので、社内で一緒に来られる人とできる限り参加している。献血が可能な65歳まで積極的に継続していく」と話していた。



献血を行う会員企業の社員ら

松代文化財ボランティアの会と資料整理

松代文化施設等管理事務所
研究員 山中 さゆり



「学ぼう会」で資料の取り扱いを学ぶボランティア会員

みなさまあけましておめでとうございます。新年いかがおすごでしょうか。さて、以前も、冬は博物館にとって実は忙しい季節だということをお伝えしま

したが、今回もそれに絡めたお話をしたいと思えます。次年度の活動に向けての調査や資料整理など、地道な作業が増えるこの時期ですが、そこで大いに活躍してくださっているのが、何度かご紹介している松代文化財ボランティアの会です。どのようなことをしているのか、詳しくご紹介しましょう。

この活動は、コロナ禍でボランティア活動が思うようにできなくなった時、お客様向けではなくとも何か今後につながる活動ができないかと考えて始めたものです。まず「学ぼう会」と名付け、月に1回ボランティアのスキルアップのため、古文書や大名道具、甲冑などについて改めて学び直す講座を行いました。普通はお見せしないような、古文書が大量に入っている小箆箆をそのまま見たり、古い体験用の甲冑を分解して構造を調べたり、掛軸や巻物の取り扱いをやってみたい、通常では体験しないことをしていただきました。希望者を募って始めましたが、30人程度の会員が約一年間にわたり学びを続けました。

そしてその翌年から、学びを生かせる活動として、資料整理作業を始めました。資料整理といっても様々です。古文書をはじめ掛軸や食器、衣類、写真などもあります。古文書が読めなくても埃やゴミをはらうクリーニングはできますし、明治時代以降の書籍でしたら書名は読めるものが多いので、番号を付けて目録を作ることができます。食

器は辞典などでどんなものか調べて台帳を作り、着物が好きな方には、種類をお聞きしたりたたみ方を詳しく教えていただいたり、私たち職員も大変勉強になりました。まさに、適材適所でお互いに学び合うことができます。参加の会員は20名程となりましたが、皆さん大変楽しんで、興味を持って取り組んでいます。

このボランティア会員による資料整理によって、松代藩士・山寺常山を輩出した山寺家の寄贈資料の整理が完了し、昨年企画展に生かすことができました。その後も継続してボランティア会員との資料整理作業は続いています。旧藩士家の資料群からは、10代藩主・真田幸民の書が出てきたり、真田家には残っていない浮世絵が多数見つかったりしていますので、これからも発見があるでしょう。

現在は、真田邸の下張り文書のクリーニング作業を中心に行っています。真田邸の襖下張り文書はこれまでもご紹介してきたように、ボランティア会員有志によってはがしや整理・解説作業が続けられていますが「学ぼう会」から引き続けている資料整理作業では、主に汚れがひどい壁紙の下張り文書を扱っています。壁紙なので、土や泥が大量に付いているものも多く、それを刷毛やヘラでやさしく落としてから、文化財特有の方法で水洗いをします。これは、私たち職員が自然災害の被害を受けた文化財のレスキュー現場で行われている保存技術を教えていただき、ボランティア会員と共有したものです。これらの成果も年末の展示に生かす予定です。

ボランティア活動というと、観光案内や展示解説を思い浮かべる方も多いでしょう。でも、松代文化財ボランティアの会は「地域の文化財を自ら調査研究し、広く紹介をする活動を通して地域文化の振興に寄与すること」を設立の趣旨としています。今回ご紹介した資料整理作業はまさに「自ら調査研究し、広く紹介する活動」といえます。この活動をもとに地域に残る文化財の素晴らしさや魅力を、ボランティア会員含め多くの方が知っていただけるようになったら幸いです。

働きやすい環境整備等を要望

長野市建協 市建築関係職員と意見交換



長野市建設業協会（川浦俊樹会長）は11月13日、長野市内のホテルで市の建築担当者らと建築行政懇談会を行った＝写真。市から武井晋市建設部次長兼課長ら12人、協会からは女性部会も含む建築技術者ら約30人が出席。協会側は、週休二日制に伴う適正な工期設定や担い手不足解消に向けた取り組み、女性も働きやすい環境の整備などを要望した。

懇談を前に徳武信行副会長は「労務費や各種資材の高騰、働き方改革への対応など様々な問題が発生している。行政と建設業が協力して各課題を解決し、市の発展につなげていきたい」とあいさつ。武井次長は「地元の守り手として建設業は必要な存在。業界からの声を聞き、市も主体性を持って取り組んでいく」と力を込めた。

懇談会は建築委員会（服田豊委員長）が企画、事前に会員から出された質問要望事項に沿って行われた。

協会側は人材や担い手不足の解消に向けて、小学校長寿命化工事等で行われている児童の工事見学会のほか、中学校などでキャリア教育と連携した職場体験を行うなど、市独自の「長野市モデル」の構築を求めた。

協会側は、市が導入を進める電子契約や電子保証について今後のスケジュールを質問。市側は「具体的な時期はまだ示せないが、複数のシステム業者に話を聞き、他市町村の動きも調査してい

る。電子保証は電子契約に合わせて導入する必要がある」との認識を示した。

「契約後に建物管理者等の都合で工事が止まり工程調整が困難になるケースがあった」との指摘に、市側は「各管理者との事前調整を十分行い、適正な工期設定に努める。受注者の責でない部分で休業等が生じ、協議で妥当と判断した際は柔軟に対応する」と答えた。「進捗が遅れが出た長寿命化工事で、敷地内の別棟で発注された長寿命化工事が同期間の工期設定となっている」との質問に、市側は「前回より施工しやすい条件なので同時期の工期設定とした。図面や内訳書では伝わりにくく、伝える工夫が必要だった」と回答した。

県住宅供給公社に管理を委託している市営住宅について、「改修工事の発注者はどこか」「統廃合が計画されている市営住宅の退去者から退去前修繕の依頼があった」との質問に、市側は「補助金を使う工事は市、それ以外の修繕は供給公社が発注する。退去時の修繕は、入居募集を停止していれば免除だが、団地によってはエリア内で募集を停止する、しないで混在している部分もあり注意が必要」と理解を求めた。

提出書類の簡素化を目指して協会側が求めた情報共有システムからの電子納品について、市側は「庁内の容量の関係で電子納品は困難な部分がある。提出書類はより簡素化に向けて検討していく」とした。工事現場敷地外の駐車スペース確保の必要性について、市側は「現場が進んだ実用に応じ、必要台数の確保を協議する」と答えた。

このほか協会側は、契約後の新たな追加工種に関する変更内訳細目までの金額の提示、学校トイレ改修など外部足場未設置の現場で材料の荷上げ等を人力で行う場合の費用積上計上、最低制限価格の算出基準の開示、共同企業体の編成条件の変更などを要望した。女性部会は鍵の付いた更衣室や必要に応じたシャワールームの導入などを求めた。

巳年男年頭所感



『嗚呼、還暦』

飯島建設(株)
社長 飯島 泰臣

「まさか還暦を迎えるとは！」が正直なところです。野球に明け暮れた10代から20代前半。パブルの崩壊、リーマンショックに「コンクリートから人へ」や「脱ダム宣言」と、厳しい思い出しか残っていない30代・40代から、あっという間の50代。そして、時代は大転換期を迎える中、私も人生の節目を迎えました。

この60年、本当に多くの方々に支えられてきました。お客様をはじめ、建設業協会の諸先輩や友人、協力会社の方々、社員とご家族の皆さま、そして自分の家族には感謝の言葉しかありません。ただ、還暦とはいえ、未来に向けた新たな挑戦も続けていきたいと思っています。また地域社会にも、より一層貢献できるように尽力いたします。次世代に繋いでいく立場としての役割も果たしてまいります。

そして、益々「藁(とう)が立って」来るでしょう。どうか嫌がらずにお付き合い下さい。今後ともよろしく願いたします。



明日からも頑張っ

(株)喜久屋商会
社長 原山 大輔

普段から、干支とか何年とか気にせず生きているので、「あなた巳年です」と言われてもなんだかわからず、そもそもほんとに巳年なのか久しぶりに母親に電話しました。やっぱり巳年でした。

なので、chatGPTに「48歳 巳年 年男」で検索すると、48歳の巳年の年男として、これまでの経験を活かし、健康を最優先に考え、定期的な運動とバランスの取れた食事を心がけます。また、巳年の特性を活かし、柔軟な思考で新しい挑戦を受け入れ、趣味やスキルを向上させるために毎月一つ新しいことを学びます。家族や友人との絆を深めるために積極的にコミュニケーションを図り、感謝の気持ちを大切にします。自己成長を目指し、読書や自己啓発に時間を使い、仕事においても目標を達成するために計画的に行動し、努力を惜しまない一年にしたいと思います。

技術の進歩はすばらしい。新しいものって便利ですよ、chatGPTや生成AI。建設業ならICT施工。一度使ったらやめられなくなります。最近、群馬からのゴルフの帰り、運転もハンドルを触ってるだけの自動運転、あまりに眠くて、車に「なにか面白いこと言ってよ」と話すと、「OK」「かっぱって生きてください。明日は、いいことありますよ」って返してくれました。明日からも頑張っ生きていこうと思います。



「長老の一言」

(株)中村組
社長 中村 庄市

この投稿依頼を受けた時、「確か前回は寄稿したんだよね、もう12年もたったのか、年を取るのも早いものだな」と、改めて実感しました。

先日、ある会合の終わりに誰かを指名していた時、「この会の長老の…」と言われた際(最近難聴気味でよく聞こえない)、周りから自分だと気付かされました。果たして本当に長老なのかと、周りの皆に確認したところ確かに一番の年長でした。ついこの間まで先輩から「その“にかっこ”横に座れ！」と言われていた自分がいつの間にか業界でも年長の仲間となっていた。自分はいつまでも若いつもりでいても、身体はそこら中で不具合が出ていて医者通い。確かにもう老人だ！

老人の戯言「今の世の中何とかしろ！今の日本、今の長野県は何かおかしい！」。この業界だけはおかしくないでください！後輩たちに期待しています。



「還暦」を自覚しながら

(株)アスペック
社長 楠 茂夫

私は20歳でこの業界へ入職しました。その後24歳で子会社へ転籍し、41歳で社長を引き継いで以来、多くのお客様や社員さんに助けて頂き、18年間にわたり会社の発展と成長に尽力してまいりました。現在は舗装工事、土木工事を主力業務とし、公共・民間を問わず地域のインフラ整備等に貢献することを使命としています。

私たちは、昭和～平成～令和と変遷を経てきました。2024年の流行語にあったように『ふてほど』世代で、現代の若者からみた昭和生まれは、私たちが明治生まれの産物の様に映っているやもしれません。巳年の還暦を迎え、その辺りを自覚しながらも、未来に向かって挑戦を続けてまいりますので、宜しく願いたします。



人生後半のスタートライン

(株)デベロッパーズ
社長 中井 誠

年男も5回目を数え還暦という節目の年を迎えます。還暦という節目に向かいそのまま衰えていってはいけません！と数年前から健康を意識したダイエットをしたり、昨年からは自分自身の楽しみとして30数年ぶりにバイクに乗り始めました。肌で感じる自然を楽しみながら、車とは違い全身でのライディングでボケ防止と体力づくりにもなると思っています。

高校生の時、学校に来た献血車で興味本位に始めた献血「自分にできる社会貢献はこれくらいかな？」と回数を重ね現在91回、100回での卒業を目指していますが今年中にできるかな？

これまで様々な人との出会いや多くの経験を通して多くの事を学ばせていただきました。これからの後半人生も特に健康には留意しながら人との出会いを大切に、たくさんのご指導をいただき、チャレンジ精神を忘れずに笑顔あふれる楽しい日々を送っていききたいものです。

建設 ネットワーク **キャンプに誘われて**

(株)ナガノ建築サービス

代表取締役 **徳武 信行**

昨年の春、以前から友人にキャンプに行こうと誘われていたのですが、キャンプに興味もなく、気が進まなかったので、行く機会を作ろうとしませんでした。

気が進まない理由は①この歳になってテントで眠れるか心配②キャンプ道具を持っていない③キャンプ場でお酒を飲んで料理する以外何をするのかわからない—といった理由です。ですが友人から絶対楽しいからと言われ、ようやく重い腰を上げキャンプに行く計画を立てることにしました。

日程は8月下旬。場所は戸隠キャンプ場に決定です。事前に計画する事は好きなので検索しながら準備を始めることにします。まず、不安材料①ですが、いくらキャンプ場とはいえ危険動物対策という理由で車中泊することで解決しました。しかし車で一晩過ごすのは20歳ぐらいの時以来ということもあり、車中泊専用のマットを購入し、事前に寝てみました。多少慣れが必要だとは思いましたが、意外と寝れます。②は友人が家族で年に数回キャンプをしているようなので特に揃える物は無く話が進みます。③についてですが、いろいろ検索したり聞いてもテントを張る準備、料理を楽しむ、お酒を飲む。これ以外想像つきませんでした。あまり考えていても進まないと思い、食べたいものを作ってお酒を飲むことから準備することにします。定番の焼肉・焼きそば・燻製は友人が用意すると言っていたので、自分はゴーヤチャンプルと少し厚めのステーキ肉を用意。飲み物はビールとハイボール。と一応赤ワイン。当然近くにお店も無いので忘れ物がないよう準備を進めていきます。食器類からビニール袋、ランタン等、最後には多少備蓄してある防災セットまで(笑)。気付いたら避難生活のシミュレーションをしているようでした。準備しているうちに何か大事なことをしている気がして、真剣に防災グッズも検索していました。

ある程度準備が整い、いよいよ当日を迎えます。



お昼集合です。まず予約した場所でテントを張る位置を決め組み立て、少し遅い昼食の準備です。机、椅子、ガスコンロ、焚火台、食材を調理して、当然お酒を飲みながらです。意外に楽しく過ごせています。夕方、雷に遭いました。かなりの大雨です。携帯で確認すると長野市内と戸隠に集中豪雨です。全くテントの外に出れません。雨水と戦いながら止むのを待つしかありません。雨音も凄く会話も聞き取れないほどでした。会話といっても雨の話しか無く、全くすることが無く、10時過ぎに車で就寝です。

朝は5時に目が覚めます。清々しい朝です。高原の朝を散策していると友人が起きてきて焚き火を始めます。周りの家族連れのテントでも焚き火が始まっています。皆さんも全く会話も無くひたすら火をおこし、眺めています。そうです朝食の準備以外他に本当にやる事が無いのです。考えてみたら昨日から会話しながらご飯を食べる準備をして、食べて飲んで片付けをする事以外何もしていません。日常の、計画をして時間を効率よく使うという考え方とは違う何か本能的な時間の使い方を自然の中で経験をさせてもらいました。

そんな時間の使い方は、結構心地がよいものと気づかされました。キャンプをされている方々がどのように楽しんでいるかはそれぞれだと思いますが、時を過ごすのを楽しむというののもいいかもしれません。災害に備える準備と訓練を兼ねて、大自然の中で過ごす時間。訓練が役に立つ状況にはなってはほしくないですが、次回機会があれば季節を変えて、また、挑戦しようと思ってしまうかもしれません。そんな事に気づかせてくれた友人に感謝しています。

長野県建設業協会長野支部

- 11月 6日 △土木事業推進懇談会 (3 所長・次長・正副支部長)
- 11月 8日 △土木正副委員長会議
- 11月 13日 △入会審査特別委員会
△女性部会
- 11月 25日 △長野建設事務所除雪連絡会議
- 11月 29日 △表彰特別委員会
- 12月 5日 △技術専門研修 (No.3) (技士会共催)
△長野地区木造家屋等建築工事安全対策委員会安全パトロール
- 12月 9日 △現地機関との意見交換会
- 12月 12日 △長野工業高校建築科1年生との交流会 (市協会合同)
- 12月 16日 △理事・監事・顧問・相談役会議
△二団体合同役員会
- 12月 19日 △第40回献血ボランティア「建設で献血だ！」 (市協会合同)
- 12月 20日 △監理技術者講習会
- 12月 23日 △正副支部長・委員長・部会長会議
- 1月 8日 △長野市新年合同賀詞交歓・懇談会
- 1月 9日 △正副支部長会議
- 1月 10日 △長野建築センター新春名刺交歓会
- 1月 17日 △安全祈願△支部長表彰式・ダルマ開眼式△賀詞交歓会 (市協会合同)

長野市建設業協会

- 11月 5日 △建築委員会「ササランド活動支援」
- 11月 13日 △建築行政懇談会
- 11月 26日 △土木委員会
- 12月 3日 △広報委員会
- 12月 10日 △長野経済新聞社・建設タイムズ新春合併号座談会
- 12月 12日 △女性部会「長野工業高校建築科1年生との交流会」 (支部合同)
- 12月 16日 △理事会
△二団体役員会
- 12月 19日 △第40回献血ボランティア「建設で献血だ！」 (支部合同)
- 1月 8日 △長野市新年賀詞交歓会△長野市議会議長新年挨拶
- 1月 10日 △長野建築センター新春名刺交歓会
- 1月 17日 △賀詞交歓会 (支部合同)

関連団体

- 11月 8日 長住協：△信州健康ゼロエネ住宅普及促進協議会
- 11月 11日 建災防：△安全指導者会
- 11月19～20日 建災防：△建築物等の鉄骨組立等作業主任者技能講習会
- 11月 27日 犀協会：△砂防正副委員長会議
建災防：△建災防県支部安全大会
- 11月 28日 技士会：△技術委員会
- 12月3～4日 建災防：△型枠支保工の組立等作業主任者技能講習会
- 12月 5日 技士会：△技術専門研修 (No.3) (長野支部共催)
- 12月 11日 犀協会：△砂防安全パトロール△パトロール報告会△砂防技術懇談会△土尻川砂防事務所との意見交換会
- 12月 12日 建災防：△安全パトロール△冬季労働災害防止集団指導

- 12月 13日 技士会：△代議員会
- 12月17～18日 建災防：△建築物石綿含有建材調査者講習会
- 12月 24日 建災防：△足場の組立て等の業務に係る特別教育
- 1月 10日 犀協会：△正副会長会議

会員動静

●代表者変更

千広建設(株) (支部・市協会正会員)
 嗣 野澤 祥廣 嗣 新井 精一
 (株)日拓 (支部・市協会正会員)
 嗣 塩入 広崇 嗣 山上 卓秀

●入会

(株)キッツワーク (市協会正会員、12月1日付)

編集後記

令和7年明け新しい1年が始まりました。今年はどうな1年になるのでしょうか？

今年巳年ですがヘビを好む方は少ないのではないのでしょうか？私もやはりヘビは苦手です。しかしちょっと調べてみると△恩を忘れずに返す動物△古くから豊穡神・天候神として信仰の対象とされてきた△脱皮をするヘビは「復活と再生」を連想し、不老長寿や強い生命力につながる縁起のいい動物△七福神の一員である蓄財・芸能の女神「弁財天」は、蛇の型をした神であるーなどイメージとは逆で縁起の良い動物のようです。

脱皮をする蛇のイメージから巳年は「復活と再生」を意味します。植物に種子ができはじめる時期、次の生命が誕生する時期など、新しいことが始まる年になると言われています。また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われるようです。「平穩無事な良い1年に」を願うばかりです。(中井 誠)

発行所 一般社団法人長野市建設業協会

http://www.9plala.or.jp/sikenkyo/
 長野市岡田町124-1 長水建設会館内
 TEL026-224-3660 Fax026-228-6231
 長野県建設業協会長野支部
 http://w2.avis.ne.jp/~nkn/
 長野市岡田町124-1 長水建設会館内
 TEL026-227-6226 Fax026-228-6231

発行責任者 飯島 泰臣 川浦 俊樹

編集責任者 柳沢 昌宏

編集製作 長野経済新聞社

建設ながのNo.231 令和7年1月発行